

國學院大學講師 文學士 田中義能 著

最新刊

本居宣長之哲學

菊判總クローズ上製全一冊 紙數六百十六頁 定價金貳圓拾錢 郵税金拾貳錢

本書は畏くも

天皇陛下
皇后陛下

の叢覽を忝うし奉る

發行所

東京市神田區錦町三ノ二
振替口座東京一〇五六六番

日本學術研究會

賜天覽

好評嘖々

「時事新報」(二〇二八五號)評

▲著者は國學院大學の講師で、曩に神道哲學に關する二三の著書あり。最近には「平田篤胤之哲學」を公にして、我國固有の道學を闡明し、今又本著を發表するに至つた。内容は總叙に於て經歷を掲げ、性行を叙し、其學風より著書のこと及び、更に學統を詮索しては、復古神道の發展、學祖春滿、學父眞淵をあげ、本論に入りて世界論、原理論、政治論、宗教論、學問論、異端論等を詳にし、其學派を論じては、本居春庭、本居大平、服部中庸、齋藤彦麿、門派の巨擘、歿後の門人等に言及し、尙ほ統括には宣長學の反動、諸家との比較、批評等を紹介す。引證該博、細叙精記、讀む者をして肯せしめずんば竭まざらんぞす。

「大阪毎日新聞」(二〇三二〇號)評

▲公平なる哲學的見地より古事記傳其他の著書に著はれたる本居宣長が世界人世に關する一代の學說を批評紹介するが本書の目的にして所謂復古神道なるもの、内容を闡明するに委曲を盡せる著者の努力は我が學界の爲に大に多せざるを得ず。

本居宣長之哲學

『東京朝日新聞』(九二三八號)評

▲本居宣長の世界、人生に關する一代の學說を系統的組織的に述べたる書にして、併せて其學統に屬する學者の學說をも叙述せり。故に一面より見れば我邦に於ける復古神道派の哲學を綜說せるものと謂ふべく、祖宗の遺訓を闡發せる皇道即ち神道派の世道人心の上に及ぼせる功績は此書出でたるがためにいよ／＼顯著なるべし。

『讀賣新聞』(二二五八二號)評

▲田中義能氏さきに「平田篤胤之哲學」を著はす、本居は即ち平田の師事せし所、著者の近業ある所以なり、思ふに著者が復古神道派の哲學に忠ならんとする精神は、此の二書によりて十二分に江湖に知られたりと謂ふ可し。

『萬朝報』(六七三六號)評

▲本居宣長が神道哲學の鼓吹者として將た國學者として、我國思想史上の大立物たるは言はずもがな。其熱誠をこめたる忠君愛國説の、やがて維新の鴻業に及ぼせる影響も亦甚だ大ならずんばならず。著者曩に平田篤胤之哲學を著して、今又此偉人を説き、學説は勿論進んでその學統に屬する多數學者の諸説をも叙し、所謂復古神道學派の哲學を明にせんごしたり。考證頗る之を努め所論穩健。大體に於て能く其時代と人との面影を説き得たるを見る。

世論の反響

『神風』(一一三號)評

▲我が神道學者として造詣深き文學士田中義能氏は、前に平田篤胤之哲學を刊行せられ斯道界に一大貢獻を與へられたる事は遍く世人の敬慕する處なるが今回更に本居宣長之哲學てふ一書を公にせられたり。

天明寛政の交該博なる學、卓拔なる識を以て我が神道哲學を攻究し、復古神道を天下に唱へ、以て固有の大道を喚起し、奮然として思想界に一大革新を大成せしめられたる我思想史上の大偉人本居大人は、愈氏によりて完全なる哲學的研究を試みられたり。而も熱誠にして朴直なる著者が、非凡の研究は史家の本領たる公平を旨として、終始一貫し、史料繙奥、文彩燦然として、通讀百遍敢て倦まず、讀者をして自ら襟を正さしむる者あり。蓋し之大人の遺徳なると共に、著者が常に我が學界の重鎮として、夙に我が國民教育の學理と實際との上に貢獻せらるゝの深きによるなるべし。

▲吾人は茲に一言して氏の研究を社會に紹介し、國民垂教の勞を多とする所以也。

『神社協會雜誌』(第十一年第五號)評

▲實にや鈴の舎一代の偉業は今更之を暇々するの要を見ずと雖も、その精神を研究し、その遺業を祖述せんは、また容易の業にあらず。著者専ら我國固有の、大道を正し、我國民教育の學理と實際との上に貢獻する所あらんことを期し之を哲學の見地よりして評論するものなり。先きの「平田篤胤之哲學」と併せ見るあらば、自ら「實踐哲學に於ける忠君愛國の説、綱常彝倫の教」は闡明にせられむ。その研究の飽まで眞面目にして、偉人宣長を系統的に解釋せんことを努められたる、眞に著者を俟つて初めて得たるものといふべし。

本居宣長之哲學

『二六新報』(四八九六號)評

▲吾國の神道なるものが佛教の輸入と共に、一種の變態を來して終に佛教的神道となり、盛に佛教諸家に利用された事は歴史の明かに示す所である。

▲是は後に唯一神道となりて稍々面目を改めたけれども、尙ほ本來の面目を發揮する能はずして、唐宋諸儒の糟粕、胎金兩部の餘瀝を殘さない譯に行かなかつた。

▲此の間にありて系脈を直に古代に取り、我が固有の神道を主張し得た者は實に復古神道の諸家である。

▲復古神道の學父とも云ふべき人は加茂真淵で、真淵の正脈を受け繼いで復古神道を大成するに至つた人は實に本居宣長である。

▲或人は神道を稱して宗教と云ふ程の價值はないと云ふ。成程日本の神道にはバイブルやコーランや諸種の佛典のやうな、完備した經典はないかも知れぬが、然し復古神道家の宇宙說、創世說、神祇說に宗教的將來哲學的價值がないと云ふことが出来やうか。

▲復古神道に於て發見する諸種の哲學は實に外來文明の影響を受けぬ純粹なる日本民族の宇宙觀、神靈觀である。若し之を何等研究の價值なしとして一笑に附し去るものがあるならば、其の人は實に自身自身の屬して居る民族的思想の發展を無視した人とも云ふて好まらうと思ふ。

▲吾人の曾て有した、物質的文明が決して世界の他の國の文明に劣つて居なかつたやうに、吾人の祖先が有した宗教的哲學的、將道德的思想は決して基督教の其れにも佛教の其れにも劣つて居なかつた。人類思想發展の徑路は何れの國人も皆な一様な筈である。

▲宣長の『古事記傳』に現れた世界論原理論の學說が今日の學說と比較して果して何れだけの優劣があるか其れは知らぬ。唯吾人は宣長を透して日本民族の思想が何の邊まで發展したかを知れば其れで好いのである。

▲宣長の有した政治論、宗教論其は今日より見れば陳腐なものであつたかもしれぬが、けれども吾人は其の陳腐なるものの中に、何れ程の眞理を含むて居たかを検して、國民の思想の今日に至る迄には何の程度の發展の徑路を辿つて來たかを研究すればそれで好い。

▲著者は有名なる神道哲學專攻の士であるから、讀者は宣長の著書五十部百三十餘卷の書を讀破せずとも本書を一讀すれば宣長の哲學——否復古神道諸家の哲學を遺憾なく知ることは出来やう。先年著者が公にした『平田篤胤の哲學』が讀者間に重ぜられた一事に徴するも亦本書の價值を知に充分と思ふ。

家庭教育の寶典

日本大學教育學講師 文學士 田中義能先生著

新刊 家庭教育學

洋裝全一冊 定價金壹圓四拾錢 郵稅十一錢

「萬朝報」評 家庭教育以て學校教育社會教育など、共に一個の特立したる教育學ならしめんとすして、之十九節に分ち家庭教育的に論述したるものやがて此家庭教育學なり、篇を分つこと八更に之を二十九章八十九節に分ち家庭教育的の意義由來目的より始めて、結婚居住妊娠胎教出産哺乳子守疾病看護習育情育意も實に四百數十の多きに及ぶ、述論整然として頗る要を得系統的に論述されたる此種の著書として蓋しオソリチにたるに足らん、加ふるに口語調を採りて平易なる記述を試みたるは双手を擧げて吾人の最も歡ぶ所、評者は此書を一般家庭の珍として推薦するに吝かざるものならざるなり。

「東京日日新聞」評 兒童の成長如何なる人物となるかは兒童の遺傳、性、環境等に基くも亦、之を其子にして往々不良低能の子を養ひ自ら憂慮さ不快さ一に捕はれつゝあるは現世幾多の實例あり是に於て家庭教育の問題は實際問題として蓋し痛切ならざるべからず、本著者は著者之を救済せんとして、は出產飲食衣服睡眠入浴子守を論じ、疾病看護病法を説きたる結核居住妊娠胎教に及ぶ養護論に入り、家庭教育の印象を論じ、尙餘論として母の任務家庭教師等の事を論ずる子を持つ父母たるもの、一讀すべき眞著なり。

「國民新聞」評 從來の教育學の家庭教育に關する注意なきのみか、家庭教育も學校教育も極めて難解なる一切の注意及び學理を極めて詳細に學理及び實驗の兩面より叙述す記述又丁寧にして家庭教育に於ける其の興味を旨とし言文一致體を採るまで注意到れり家庭何人も讀んで益を得ること多し、抑振ある事實「青年及青年團」評 少學校教育に充分なる得ないからである、文學士田中義能君は爲學の士である、其の大學院に行はれなければ學校教育も充分なる得ないからである、和漢古今の斷片零までも此の教育且之を自己愛兒養育の實驗に徴し本書を大成せらる、叙述序あり説明懇切を極む、實に我國に於ける此種の著書の白眉といふべきである、故に愛兒の教育に苦心せらる、父母及將來賢夫良妻たらんことを此兄弟及教育家は之を熟讀せられれば多大なる利益を得らる、こゝには疑ありませぬ。

東京株式會社 同文館 田神

文學士 田中義能著

平田篤胤之哲學

菊判洋裝上製全一冊 紙數五八二頁 定價金貳圓

本書は畏くも

天皇陛下
皇后陛下

賜天覽

の叡覽を忝うし奉る

發行所 東京市神田區錦町三ノ二

日本學術研究會

好評嘖々

『萬朝報』(五八三一號)評

▲平田篤胤は本居宣長の學說を承けて神道の正義を鼓吹し、我邦國民的特性の發揮は即ち神道の體得にありとなし、盛に儒佛の二道を罵倒して自己學說の主張に其全生涯を傾注したる熱誠の國學者なり。著者今國民教育に資する所あらんとして此書を著はし、四編十六章に分ちて學說を論じ、經歷を傳へ、一々典據出所を明にして尤然たる大冊をなす。名は哲學と謂へども要するに篤胤の研究なり。

▲所論穩健にして而も公平、加ふるに考證甚努めたるは、充分に著者が篤胤なる研究的態度を認むるに足る。吾人は双手を擧げて斯の如き眞面目なる研究の世に公にせらるゝを歓迎す。

『報知新聞』(一一七三四號)評

▲讀過良く先生の先生たる處を窺ふを得べし。是非一讀すべき好著也

平田篤胤之哲學

「神風」(九〇號)評

▲其の内容を見るに、著者たる田中先生は、目下國學院大學の講師にして、其の述ぶる所の本書に執りては、平田翁の經歷・性行・學統より學說・對異・統括の各篇、即ち平田翁の世界・人生等に關する一代の學說を、系統的組織的に説述したるものにして、平田翁は何人も知る處の我國屈指の熱心なる神道家にして、其の熱心なる言論は、自餘のものを燒棄せずんば止まざるの概あり。其の神道を尊で儒佛を排し有らゆる異學を排して餘力を遣さざる處は翁としての特長なり。されば其の見識あり、氣概あり、毫も他に一步を譲らず、所謂權威ある學者の説として、又一派の神道家として、之を研究したらんには、其の得る所多大ならんとす。宜しく神道家たるもの一書を購ふて座右に置かれよ。

「東京朝日新聞」(八三九一號)評

▲實にや神道は皇國の大道にして、他の宗教の如く經典學說あるに非ずと雖も、建國當時より萬古不滅の大綱として、國民の精髓を支配し來れるもの也。吾が平田篤胤の教は、本居宣長の學說の後を承け、此の大本に據り、異端の教を斥け忠君愛國の實踐哲學を鼓吹せる者にて、其説往々にして稍極端に走り、間々牽會の箇所なきに非ずと雖も、斯道の根本を確立せし點に於て、日本神道史中の大立物たるに背かず。又一代の經歷に於ても、一世の模範たる可きの人なり。本書は——翁を研究せんとする人には好古の參考書なるべし。

世論の響反

「大阪毎日新聞」(九四〇一號)評

▲國學院講師田中義能氏の「平田篤胤之哲學」は、神道國學の人傑を思想上哲學上より評傳した書としては、殆ど初めて位なものであらう。是まで朱子學古學等儒家の學說に就いての述作はあるが、皇學家をこれほどに系統的思想的に論じたものは記者は未だ見なかつた。篤胤は本居の先導者となつて開いた獨自的皇學論を一層積極的に批評眼を開き、宗教觀に至つて殊に生面がある。「神はわが神なりわれは神の人なり」と言つたのなどは最もその思想の超凡を證せらる。

▲田中氏の此書は、多方面に能く篤胤の思想を解剖してある。信仰對象論の如き、此書の標榜する所に背かぬ。但だ國家と宗教の論、其他になほ百尺竿頭今一步ありたいと思ふ處があるが——學界思想界の爲に、此偉大な思想家——儒佛を超脱して日本の獨自の思想を發揮した——篤胤を活描し來つた著者の勞を多として、此書を推薦す。

「養徳」(八卷十二號)評

▲平田翁の學說を充分批評發揮して餘蘊なきのみならず、且組織的に叙述せられたるは、近來比類なき著述と云ふべし。今や世上一般哲學と云へば歐西傳來の學說を祖述するのみにて、我日本には哲學と稱すべきものなしなど云へるに際し、本書の出づるあり、我斯道界に一大明燈を得たるのみならず、我國體の精華を發揮するに於て効補はずんばあらず。

平田篤胤之哲學

『東亞之光』(五卷一號)

▲著者の苦心——著者は篤胤の哲學を叙述せんとして、先づ其學說と親密の關係ある篤胤の性格に注目してゐる。而して篤胤の性格を合理的に叙述するの目的を以て著者は先づ筆を家庭の歴史より起し、篤胤の幼時に於ける家庭教育を攻撃し、彼が一家の擧げて淺見流の學風を奉ぜざることを注意し、淺見流の教育主義は闇齋の學を承けて、更に尊王盡忠の義を發揮せんとするものなるを説いて彼が後年の生命たる復古神道に趨いた所以を明かならしめて居る。著者は此等の經歷境遇に就て叙すると共に、又篤胤の性行を説いて精に入つて居る。即ち篤胤の豪悍不屈獨立獨行の精神、精力の絶倫なること、信心の深きこと、及其交友を説き又元和僞武の際に於ける文運復興の當時勢を論じて、其哲學及學風の由つて起る所以の徑路を明かにして居る。

▲平田の洽聞博識——其學問の複雑多面なることは類ひまれである。國學儒學に通じて居るは言ふまでもなく、神道を説き、易を論じ、又釋迦を論じ、佛說經文を批評し、禪を述べ、老子を講じ……著書甚だ多くして説く所日本支那印度に亘り、又國學のことに及んで居る。著者は此の如く多方面なる篤胤の思想學說を組織するに、世界論、原理論、宗教論及倫理論、教育論の五段を以つてし、先づ創世論國土の發展に關する傳説より説き起して、日本眞神道の解説に移つて居る。而して著者は就中其宗教論に重きを置いたのは神道神學者としての篤胤をあらはすに甚だ利ろしい點である。

▲本書の價值——近世神道は、神道史上最も光彩ある部分である。然るに篤胤の哲學は、近世神道を研究するに就て先づ人の知らんを欲する所である。本書は篤胤の哲學を説いて、其學風神道哲學史上に占むべき地位、並に古道に對する篤胤の考を表はし「何事も神代の傳へし事實に考へて理あることは得默せず考の及ばん限りは云はん」とする篤胤の學說と精神とを善く顯はして居る。本書は著者が多年の心血を注ぐの餘り成れるもので一時的に起る射利的發作の仕事でない。故に本書は著者の學識と共に善く其眞面目なる著者の人格をあらはして居る。

『神社協會雜誌』(八年十一號)

▲本書は神道哲學の研鑽を以て夙に嘖々の聞えある田中文學士が、一代の碩學平田篤胤の學說について、公平なる史的燭眼と明確なる哲學的論定とによつて而も系統的組織的に叙述せられたるもの、解説極めて精緻、議論頗る明快、確に卓拔なる平田翁の學說を紹介し得て餘す所なし。

▲今や歐西哲學と相須つて國民思想研究の要ある時に此著あり。前古無比の我が國體の精華を發揮すると共に國家の根底を固くし、大に學界を裨益するものあらむ。

『東京日々新聞』(一一八一七號)評

▲平田篤胤は我神道史上の偉人として徳川時代の思想界に一大異彩を放てるものなり、本書は其世界人生に關する學說を系統的組織に論述せるものにして或意味より云へば、神道哲學と西洋哲學との比較研究とも見るを得べく、全卷を總叙・學說・對異・統括の四編に分つ。行文明快にして論理の整然たる事、著者の態度の敬虔にして且公平なる事、引證該博而も著者特創の識見にも乏しからざる事等は最も著しき點なり。

▲近來に於ける大著として之を世人に推薦するに憚らざるなり。

◀ 本書の價値 ▶

著新の讀必家育教

文學士 田中義能 先生 著

(目下品切)

系統的西洋教育史

布製全一冊
定價金 十二圓
郵稅金 二圓

萬朝報評

西洋各國に於ける、教育的事實及び理論を歴史的に研究し、之を系統的に記述せるもの、或は、
簡約に過ぎ、或は晦澁に失して、多少の遺憾なきを得ざりき。本書は特に意を遺脱の缺陷を補足するに
用ひ、また書中の固有名詞には大抵英獨佛三様の原語を附し、且つ處々丁寧なる、註解を挿むむなど、讀
者の便宜を計りたること少からず。近來の好述作たるもの、年代よりも、思想及び事實の連絡に重き
丁會倫理講演集評 時代の順序に依つて記載するもの、年代表よりも、思想及び事實の連絡に重き
てたる所にして、本書亦能く成功せり。故に之を發展的に記せし教育學なりと云ふ事を得ん。之れ著者の企
文學士 田中義能 先生 著

最新科學的教育學

布製全一冊
定價金 壹圓八拾錢
郵稅金 十二錢

東京朝日新聞評

著者は嚴に「系統的西洋教育史」を公にせし人なり。此の書は西洋に發達せる思想と
を精神として一大系統的教育學を組成せるものにて、體系の整然たること、議論の穩健なることは此の書の
特色なり。
哲學雜誌評 文學士田中義能氏は爲學の教育家にして、最も穩當なる學識を持ち且つ唱へて居る人で
なれる教育學である様に、又氏は教育學に純粹に學なりといへど、歐洲人の教育學が歐洲國民的彩色の基に
こを忘れてはならぬといふ意見を持つて居る。是等の意見を本として出來上つたものが則ち本著科學的
教育學である。本書は注意の能く行届いた、諸方面の問題に普くふれて、所謂まめに手際に出來て居る
本である。行文は最も流暢、思想は太だ穩健、洗練の文字中に健全の常識が貫いて居るのば氏の特色で
ある。讀者は必ずや此に由つて教育學の智識を新にし、且つ豊かならしむることあるを思ふ。

發兌 東京神田 同文館 振替口座一三五番

370

19

終